

## 地方連携推進室での1年間

平成29年7月  
外交実務研修員 櫻木雄介  
(鳥取県より派遣)

### 1 はじめに

私は平成28年4月より外交実務研修員として鳥取県庁より外務省に派遣されました。すでに一度グローバル外交ネットのレポート(平成28年4月:外交実務研修員としての4年間)を寄稿していますが、本稿では地方連携推進室での研修2年間の振り返りを迎えての雑感を述べさせていただきます。

### 2 地方連携推進室での業務

地方連携推進室では、地方との連携を推進する各種業務を行っていますが、私はその中でも『地方創生支援 飯倉公館活用対外発信事業』(以下、飯倉レセ)と『「地方を世界へ」プロジェクト』(以下、「地方を世界へ」)を主に担当しています。どちらも海外に地方の多様な魅力を発信し、安倍内閣の主要テーマの1つでもある『地方創生』の振興を外務省として支援する事業です。

### 3 『飯倉レセ』について

飯倉レセは、平成27年から岸田外務大臣のイニシアティブで始まった事業で、外務大臣と地方自治体首長との共催によるレセプションを、外務省の迎賓施設である飯倉公館で開催し、駐日外交団等に対して地方の魅力をPRするものです。

各国大使を中心とした参加者にとっては、観光や食、文化、工芸品、先端技術、伝統芸能といった地方の魅力をまるごと東京にいながら体験できる機会となっており、また、自治体にとっても、外務大臣と共催というネームバリュー、外務省がもつ外交団とのネットワーク、飯倉公館という格式ある施設など、外務省がもつアセットを活用した絶好のPRの機会となっています。

私が担当となってからこれまで、和歌山県、佐賀県、山口県、福岡県の4自治体との共催で実施しました。各回とも自治体ごとにそれぞれの特徴を出した賑やかなレセプションとなり、300名を超える方に出席いただいた回もあったほどです。



飯倉レセ(和歌山)の様子



飯倉レセ(山口)の鏡開き

飯倉レセの開催により、例えば、来場した外交団から後刻、知事への表敬訪問依頼があった、海外の旅行業者からツアー作成の打診があったなど、自治体にとって今後につながる話を聞いたときは、担当としてそのお手伝いができる良かったなという思いになります。

#### 4 『地方を世界へ』について

平成28年11月に、外務大臣はじめ外務省のハイレベルが、自ら駐日外交団と共に地方を訪れてその素晴らしさを共有し、地元の方々と対話を行い、地方の魅力を世界に発信する事業、「地方を世界へ」が立ち上がりました。

当プロジェクトは第1回の宮城県から、直近の香川県・兵庫県の訪問まで計6回実施しています。大臣や外交団に地方に行っていただき、地方の様々な魅力を現地で実際に見たり、聞いたり、感じたりしていただくことは、前述の飯倉レセとはまた違った良さがあり、注目度・発信力も高いのではないかと考えます。

この「地方を世界へ」を通じて、定期的に大臣の地方訪問日程の策定・出張業務に携わらせていただいたことは非常に良い経験になりました。何十人もの省員が業務に携わる規模の大きさ、また、非常に細かな点まで事前想定をするその緻密さなどは、地方自治体にはなかなか経験できないことだと思います。



八戸館鼻岸壁「朝市」視察の様子(青森)



外交団との昼食懇談会場にて(石川)

#### 5 地方連携推進室での1年間の研修を振り返って

外務省と聞くと、みなさん外国語が堪能で海外にもたびたび出張に行っていて(これらはあながち間違いではありませんが)、お高い役所というイメージが私の中ではありました。

しかし、いざ外務省に来てみると(意外と)優しい方が多く、また、海外ばかりに目を向けているわけではなく、地方連携推進室のように地方自治体に携わる部署もあるということに驚きました。

国の立場から様々な地方自治体と関わったことは、一地方自治体職員としていろいろ勉強になりました。加えて、私は生まれてこのかたずっと日本で暮らしている日本人でありながら、まだまだ日本について知らないコト・モノ・場所がたくさんあるのだなと改めて痛感させられました。

仕事の進め方や求められる事務処理のスピードなど、県庁時代とのギャップに戸惑いながらこの1年間はあっという間に過ぎてしまったという印象です。外交実務研修という貴重な機会を通して少しでも多くことを学んで県庁に戻れるよう、日々精進していきたいと思います。